

異業種連携し土産開発

「つくパッション」計画

つくば市を中心に食品業者や農産物生産者らによる異業種コラボの機運が高まっている。洋菓子店のコート・ダジュール(同市東新井、中山満男社長)は、新たに土産品開発プロジェクト「つくパッション」を旗揚げ。地域でこだわりの商品を手掛ける食品関連事業者に広く呼び掛け、付加価値を高めたスイーツに仕上げていく。それぞれが築き上げてきたブランド力のある商品とコラボし「地域の活性化につなげる」と(中山社長)方針だ。

▽ブランド化 「つくパッション」プロジェクトを発表

今月10日、つくば国際マの異なる事業者が連携会議場(同市)に酒蔵やし、一つのブランドで農園経営者、食品加工業『こだわり商品』を提供者、市の観光担当職員ら「したい」と、自らの考え約30名が集まった。呼びを説明した。

掛けた中山社長は「つくパッション(情が少くない)(中山社長熱)」を掛け合わせた本県の現状がある。計画

つくば「こだわり」に付加価値を

トレンド いばらき

では「ブランド」や「こだわり」「地域性」などを武器にした土産品を開発し、地域の活性化につなげる。

「そのためには、コート・ダジュールだけでは困難。力を合わせることで魅力ある土産品を発信したい」。中山社長は熱く訴える。

▽老舗とコラボ

同社は昨年、筑波農場(同市)と地元特産コシヒカリの北条米を使ったシフォンケーキやバター



新たな土産品開発へ向け連携を訴える中山満男社長＝つくば市竹園

いに打たれた」浦里浩司社長が酒かすを捻出。素材として提供しコラボ商品が実現した。

▽ストーリー性

呼び掛けには多くの経営者らが興味を示す。猿島茶製造を手掛ける野口徳太郎商店(境町)の野口富太郎社長は「製品ができるまでの物語を大切にしたい」と話す。

また、農業法人、深作農園(鉾田市)の深作勝己社長は「メロンやレンコンなど、本県は出荷量日本一のものが多い。実力ある洋菓子店と協力し、もっとPRできたい」と期待を込める。

中山社長は「思いは伝えたい。今後、自らアクションを起こしてくれる情熱ある事業者と組み、良い商品を送り出していきたい」と意欲を示した。

同酒蔵の酒かすは、全量がかす漬けなどの原料として出荷、余分はない。しかし「中山社長の酒造店(つくば市)と長の(地元に対する)思

(前島智仁)